

福島ひまわり里親プロジェクト

ひまわり新聞

ひまわり甲子園 特集号 4



たびくまと
ひまわりはたけ

はら きょうこ・中川 たかこ

世界中の子どもたちに福島・日本発、ひまわりの「きずな」を伝える、かわいらしい絵本ができました！

NPO法人 チームふくしま

福島ひまわり里親プロジェクト

TEL.024-529-5153 HP:<http://www.sunflower-fukushima.com/>

応援メッセージ



メルマガ登録



空メール送信で登録できます

ひまわり甲子園

ステージ上で熱い発表

二〇二三年三月九、十日に福島市でひまわり甲子園が開催されました。全国、福島県内から百五十名以上の方々に参加し、全国と福島のぎずなを深めました。

ステージ上では全国の参加者の取り組み発表が行われました。九州地区代表として大分県から参加した竹馬会は、ひまわりを通して地域の人たちのぎずなや、観光につながった事例の話をユーモラスに語りました。

三組目は静岡県商工会青年部連合会。県内全三十八支部で取り組んだプロジェクトを映像にまとめて発表。福島県いわき市好間町商工会への訪問と交流も発表しました。

続いて、福島市の新聞社・福島民報社が「スマイルとうほくプロジェクト」と題して、全国の里親さんの種を寄贈するという取り組みと、東北三県の新聞社と合同で行っている花を使って東北を笑顔にするプロジェクトを発表。

福島ひまわり里親プロジェクトのメンバーで、「世界一幸せな若旦那」と吉川屋若旦那島さんは、福島県旅館ホテル衛生協同組合青年部が福島県内の旅館と全国をひまわりでつなぎ、観光対策に繋げた事例を発表。新婚ホヤホヤの自身のエピソードと合わ

せてユーモラスに話しました。京都府のぞみ鍼灸整骨院からは、震災後、自分たちに何が出来たのか、すぐに福島に行った人、京都に残った人など、様々な立場からの発表がありました。プロジェクトに参加し、「身近な人を大切にする」ことが、人生の中で最も重要なことだと気づいた男性が、職場の同僚で、ひまわり栽培を丁寧熱心に続けてきた女性に対して、なんと発表中に公開プロポーズ。ステージ上のサプライズに会場も盛り上がり、参加者全員で二人を祝福しました。

六組目の発表は、広島県の福島ひまわり里親プロジェクトを応援する会の代表、渋谷さん。緩和ケア病棟に入院する男性患者が、プロジェクトのひまわりを見守り、福島とその子どもたちのことを想った短歌を残しながら、開花とともに亡くなったエピソードを映像で発表しました。渋谷さんの静かながらも心のこもった熱い言葉に、耳を傾けました。福島の発表の最後は大越町牧野ひまわり会と岩瀬農業高等学校。約千五百世帯でひまわりを育て、お盆に、毎年恒例のひまわりフェスティバルを開催し、二万本のひまわりの中で行く盆踊り大会などを開催した大越町と、高校での取り組みで、ともに里親さんのひまわりが地域、家族のぎずなを深めていった様子が紹介されま

そして種を寄贈式。全国から代表で岡山県のWAKUWAKUくらしき、鳥取県南部中学校、わくわく出雲、長野おやじの会の皆さんがステージ上にあがります。福島県を代表して裏磐梯観光協会、岩瀬農業高校、福島明成高校、まるせい果樹園の皆さんに種が渡されました。県内の参加者は、事務局を通じた受け渡しとなった昨年とは異なり、実際に里親さんの顔が見える事で種の重みを実感し改めて大切に育てようと決意したようでした。

エンディングに、種のバック詰めなどを行っていただいているNPO法人(なごみ)の全利用者の皆様とロックバンドおかんのお二人を前にして、福井県鯖江市立立待小学校の皆さんが作詞したひまわりの歌の参加者全員による合唱があり、感動のクライマックスを迎えました。



大越町ひまわりの会発表



静岡商工会のメンバー

せてユーモラスに話しました。京都府のぞみ鍼灸整骨院からは、震災後、自分たちに何が出来たのか、すぐに福島に行った人、京都に残った人など、様々な立場からの発表がありました。プロジェクトに参加し、「身近な人を大切にする」ことが、人生の中で最も重要なことだと気づいた男性が、職場の同僚で、ひまわり栽培を丁寧熱心に続けてきた女性に対して、なんと発表中に公開プロポーズ。ステージ上のサプライズに会場も盛り上がり、参加者全員で二人を祝福しました。

六組目の発表は、広島県の福島ひまわり里親プロジェクトを応援する会の代表、渋谷さん。緩和ケア病棟に入院する男性患者が、プロジェクトのひまわりを見守り、福島とその子どもたちのことを想った短歌を残しながら、開花とともに亡くなったエピソードを映像で発表しました。渋谷さんの静かながらも心のこもった熱い言葉に、耳を傾けました。福島の発表の最後は大越町牧野ひまわり会と岩瀬農業高等学校。約千五百世帯でひまわりを育て、お盆に、毎年恒例のひまわりフェスティバルを開催し、二万本のひまわりの中で行く盆踊り大会などを開催した大越町と、高校での取り組みで、ともに里親さんのひまわりが地域、家族のぎずなを深めていった様子が紹介されま

そして種を寄贈式。全国から代表で岡山県のWAKUWAKUくらしき、鳥取県南部中学校、わくわく出雲、長野おやじの会の皆さんがステージ上にあがります。福島県を代表して裏磐梯観光協会、岩瀬農業高校、福島明成高校、まるせい果樹園の皆さんに種が渡されました。県内の参加者は、事務局を通じた受け渡しとなった昨年とは異なり、実際に里親さんの顔が見える事で種の重みを実感し改めて大切に育てようと決意したようでした。

エンディングに、種のバック詰めなどを行っていただいているNPO法人(なごみ)の全利用者の皆様とロックバンドおかんのお二人を前にして、福井県鯖江市立立待小学校の皆さんが作詞したひまわりの歌の参加者全員による合唱があり、感動のクライマックスを迎えました。

川俣町の山木屋太鼓チーム 山猿の迫力ある演奏で開会

ひまわり甲子園のオープニングを飾ったのは、震災前、福島県川俣町で活動を続けてきた山木屋太鼓チーム山猿の子どもたちによる演奏。川俣町は原発事故後、一部が計画的避難区域に入っており、メンバーは現在、地域外で生活しています。

子どもたち20人が伝統の太鼓を、一糸乱れぬ迫力で演奏すると、会場は大盛り上がり。

オープニング映像の後、堀内理事の開会あいさつ、そして福島県南会津のチーム息吹の子どもによる選手宣誓がありました。



ひまわり甲子園

CHESS(チェス)君が歌うプロジェクト 応援ソング登場!



3月10日に発売された沖縄の8歳の少年、CHESS君のデビューシングル「ひまわりのうた」が、福島ひまわり里親プロジェクトの応援ソングになりました。

CHESS君は、2011年の震災をテレビのニュースで見て、何か自分に出来る事がないかと父親と考え、大好きな音楽を通して福島、東北を応援しようと、「ひまわりのうた」を作りました。ひまわり甲子園でも、150名以上の前で堂々とした歌声を披露しました。

甲子園初日の九日は、ひまわりバスツアーを開催。全国の里親さん五十五名が参加しました。お好み焼き店「かつちゃん」で食事をしたあと、二本松市NPO法人和(なごみ)を訪問しました。所長から施設の説明や震災後の活動について話を聞きました。自分たちが購入した種、そしてその種を送り返していただくことが、障がい者の雇用対策につながっていく場を実際に見学しました。

続いて福島市平野にある双葉町の仮設住宅を訪問。仮設住宅では、福島県立勿来工業高等学校の「勿工フラガール」によるフラダンス披露があり、ツアー参加者と仮設住宅の住民の方々が楽しいひと時を過ごしました。広島県立向原高校の生徒も一緒にフラダンスを踊り、交流を深めました。両校は共に二〇二二年度のプルデンシャル・ファイナンシャルによる「ボランティア・スピリット賞」

ひまわり甲子園の後、参加者同士の交友を深めるひまわり交流会が開催されました。NPO法人和の豆腐や玉こんにやく、夢成株式会社、福島名物いか人参、か

に輝いており、広島県で行われた授賞式でも一緒にフラダンスを踊りました。また、里親として参加したのぞみ鍼灸整骨院による仮設住民へのマッサージや、向原高校による屋台でのお好み焼きの提供があり、参加者だけでなく、仮設住民の方々も大満足の様子。サプライズで、南相馬市の相馬野馬追祭に出場する騎馬武者が登場すると、故郷への想いから涙する住民も見られました。最後に、全員で記念撮影。名残惜しみながらも仮設住宅を出発しました。

らあげなどのケータリングや、福島県の農家INOJAPANによる焼き芋、ふくしま土壌クラブのリンゴジュース、柏屋の薄皮まんじゅう、震災直後の炊き出し支援をした吉成理事の豚汁など「福島県人産」の沢山の料理を食べながら思い思いに交流をされていました。また、二〇二二年に惜しまれつつも閉店した福島市の半生記続いた銘店、志賀だんごやもこの日限りの復活をし、うすですいた餅を振舞いました。



Voice

大越町ひまわり会会長 佐久間 辰一

わが故郷をひまわりを通して元気な村にしようと「ひまわり会」を立ち上げて18年目になります。そして今、里親プロジェクトより後押しもいただき、町全体での取り組みも始まりました。「ひまわり甲子園」に参加した全国の多くの皆様の善意を肌で感じる事ができました。地震や原発から受けた被害は計り知れませんが、一方では、全国の皆様からの励ましから、「絆」という忘れかけていた心呼び戻してもらいました。

8月15日には恒例の「ひまわりフェスタ」を開催します。是非ご参加ください。

静岡県商工会青年部連合会会長 飯田 智之

この2年間の活動の集大成として、我々に発表の場を与えていただき、ありがとうございます。

私は、静岡県青連会長を退き顧問となり、執行部から離れますが、新体制後もひまわりプロジェクトは継続します。私個人としても、今年は庭にひまわりを植え、プロジェクトに参加します。今度は職場やお店から、お客さんへもプロジェクトの発信をしたいと思います。今後も静岡県青連ともども、よろしくお願い申し上げます。

ひまわり復興列車

元気いっぱい出発進行!

三月十日よりひまわり復興列車が運行を開始。その出発式がありました。ひまわり復興列車は、全国から届いた里親さんからの芽っセージを、福島市中心部と飯坂温泉とを結ぶローカル鉄道飯坂線の中吊り広告など車内に展示するものです。二〇二二年二月に世界で初めて動く資料館として運行したひまわり列車。二〇一三年は里親さんからの手書きのメッセージも展示。



ひまわり甲子園



歌とパフォーマンスと笑顔と涙 — 私たちのひまわり甲子園

笑顔が弾けた! 温かい涙が流れた! ステージ上では、全国から駆け付けた里親さんたちが、パワフルで優しいパフォーマンスを披露しました。100万粒の感動と涙が、夏のひまわりのように鮮やかにステージに花開きました。



①Chess ②種寄贈の様子 ③全国学生代表 広島県立向原高校 ④福島ひまわり里親プロジェクトを応援する会 ⑤福島県代表 福島県旅連青年部/吉川屋 ⑥九州地区代表 竹馬会 ⑦福島県代表 福島民報社 ⑧客席の様子 ⑨静岡県商工会青年部連合会 ⑩のぞみ鍼灸整骨院 ⑪チーム息吹(福島県南会津)による選手宣誓 ⑫福島県学生代表 大越町・岩瀬農業高校



世界中の子どもたちに福島・日本発、ひまわりの「きずな」を伝えます。

全国の里親さんと綴ってきた物語が かわいらしい絵本になりました

福島ひまわり里親プロジェクトでは、皆様のご支援により、全国各地でお話をさせていただいています。ある日、島根県の幼稚園での講演会の後のこと。一人の女の子が駆け寄ってきて、こんな質問を私たちに投げかけました。

「きずなってなあに？」

プロジェクトを通して強く感じていた「きずな」。それなのに、私たちはその子にうまく言葉で説明してあげることができません。震災の後によく口にされるようになった「きずな」。時には言葉だけが独り歩きしてきたのかもしれない。本当の意味を実感することのないまま、その言葉だけを耳にしてきた子どもたちにも、「きずな」とは何なのかを伝えたい。そのためには、どうしたらいいだろう？

そんな時、島根県出雲市の里親



さんから「プロジェクトの物語を絵本にしてみても」と提案を頂きました。

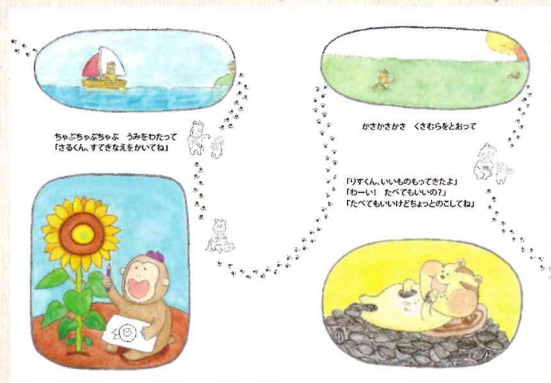
そうだ！ 私たちが感じた「きずな」を物語にした「ひまわり絵本」を作ろう！ 言葉だけに頼らない絵本なら、小さな子どもたちにも「きずな」の本当の意味を伝えることができる！

こうして、ひまわり絵本プロジェクトがスタートしました。



「福島、どなたかへのお話」
「ひまわり絵本」
「たいくま」
みんなが大好きな「ひまわり」が、福島から全国へ広がりました。

たびくまがひまわりを「みんなにも見てもらいたい」と、採れた種を旅をしながら、友だちに届けます。秋になって、たびくまが家に戻ると、たくさんの種が「たびくまポスト」に届いていました。ユニークで可愛い動物たちを通して、子どもたちに震災後の福島と全国で生まれた物語が、温かな「きずな」を伝えます。



絵本だけじゃない！ 紙芝居も完成したよ！！



ひまわり絵本「たびくまとひまわりばたけ」が、子どもたちの大好きな紙芝居になりました。ポラントニア活動や、イベントでの読み聞かせ、幼稚園、小学校の子どもたちへのプロジェクトの説明にご活用下さい。

販売(五千二百五十円+送料)もいたします。詳しくはプロジェクト事務局まで、お問合せ下さい。
info@sunhoer-fukushi
ma.com
電話 〇二四 五二九 五二五三



大越町へきずなの種を撒いた石山夫妻



大越町種まきイベント

福島県大越町 ひまわり人前式開催

「ひまわりよ 咲け！」
地域活性の願いを込めて

2013年5月3日、全国から送っていただいた「きずなの種」を福島県大越町の牧野ひまわり会様、大越町町づくり協議会様へ寄贈しました。両団体ともに昨年に引き続いての寄贈で、今年も牧野地区をあげてのひまわり栽培を通しての交流、そして大越町全体への配布による観光、町づくりに役立てて頂きます。

寄贈式では、二〇一三年九月に挙式予定の福島市在住・石山夫妻の人前式も合わせて開催。大越町が用意した畑に福島市の未来を築いていく二人が全国の里親さんの種を撒きました。

牧野ひまわり会、大越町町づくり協議会から石山夫妻に記念品の贈呈と手作りの紅白餅のプレゼントがありました。さらに、プロジェクトの看板を手がけている富岡避難地域の「目立たない看板屋」ことアド・プロ広芸社の大和田様より「KIBOWのひまわり看板」と記念キーホルダーが贈呈さ

れました。

福島の復興と二人の幸せを祈願して、ひまわり甲子園でも素晴らしい演奏を披露した、川俣町の山木屋太鼓からチーム鴉が登場。民家の庭でのびのびと演奏をし、参加者を喜ばせました。

大越町民だけでなく、静岡県里親さんや、スイス、フランスの報道陣など八十名を超える方々にご出席いただきました。石山夫妻を祝う垂れ幕や紅白幕が用意され、華やかな式典となりました。

式に先立って、石山夫婦や、牧野地区の皆さんによる種まきも行われました。三月に開催したひまわり甲子園で里親さんが大越町ひまわり会に寄贈した種で、苗になるまでまともで畑で育てられ、大きくなったら町内中に植えられます。また、毎年八月十五日に開催されるひまわりフェスティバルの会場の高柴山の前にある広場にも二万本が植えられる予定です。

福島ひまわり里親プロジェクトでは、このひまわりフェスティバルに合わせて八月十五日に大越町への「夏のお花見」を企画しています。この夏、大越町では、満開に咲いたきずなのひまわり、そして石山夫妻の愛のひまわりが咲き誇ります。

ひまわりの種まき時期と開花時期について

プロジェクトのひまわりの品種「ハイブリット・サンフラワー」は、種まきから開花までおよそ60日かかります。6月上旬に撒くと8月上旬に開花します。

また、種まきの限界時期は地域によって異なり、北海道では6月下旬、東北北部で7月中旬、東北南部7月下旬、関東、中部、近畿、中国、四国では8月中旬、九州沖縄では、8月下旬まで種を

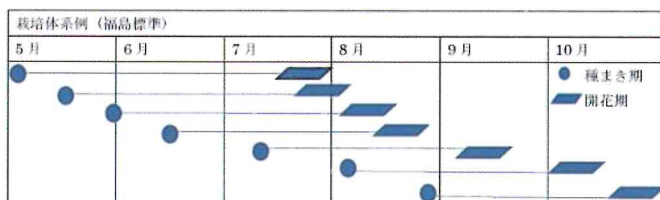
植えることができます。これは、ひまわりの開花から種の採取までの余裕を持った限界時期となっております。

昨年、福島でも11月にひまわりが開花しています。種まきの時期をずらして行うことで、長期間ひまわりの花を楽しむこともできます。

里親さん向けの種の販売は、地域の限界時期にあわせて締め切らせて

頂きます。

ひまわり甲子園では、プロジェクトのひまわりをきっかけに、職場や地域のきずなが深まった事例や、ひまわりがきっかけで結婚したカップルも生まれています。里親プロジェクトを通して、全国と福島のきずなだけでなく、身近な人とのきずなが深まっていくことを願っています。



平成25年度イベント情報

～6月末 福島県内団体に種の寄贈式

7月～9月 福島県内各地できずなのひまわり開花

8月15日 ひまわり花見会 in 大越町ひまわりフェスティバル
夏のお花見を開催。全国の里親さんと福島県のひまわり団体の皆さんが交流します。

3月8日 第2回ひまわり甲子園

3月9日 ひまわりバスツアー

チ	ム	ふ	く	し	ま
か	ら	の	メ	ッ	セ
ー	ジ				

福島市 嶋 正樹さん



2012年度、みなさんが育てた希望の種を福島の温泉地で咲かせることができました！みなさんの思い、たしかに受け取りましたよ(^_^)。

ありがとうございます！！
福島県内の温泉地にひまわりを咲かせるのが私のミッションでした。

旅館の若旦那のみんなが、地域を巻き込んでひまわりを咲かせる姿は私もとても感動しました。何か、見えない絆で地域がひとつになったような気がしました。

私自身もひまわりを育てましたが、人を育てるのと似ているなど思いました。太陽の光を全身に受けてまっすぐ育つひまわりにとっても元気をもらいました。

もっと多くの人に知ってほしい活動ですが、復興支援の熱も年を経るごとに冷めていってしまうと思います。でも、被災地では現実的な復興への取り組みは続いています。今後は絆をもっと太く、深くしていければいいと思っています。

里親さんと一緒に、感動の人生のストーリーをつくっていただけたら幸いです！

かむろみの郷/穴原温泉
匠のこころ 吉川屋(観光担当)
〒960-0282 福島県福島市飯坂町湯野字新湯6
TEL 024-542-2226 / FAX 024-542-3604
http://www.yosikawayaya.com/

早くも！開催予告

第2回 ひまわり甲子園の開催が決まりました！

2013年3月9、10日に開催し、多くの感動の物語を生んだひまわり甲子園が、大反響につき、第二回の開催を決定しました！

◇日時

2014年3月8日(土)・・・ひまわり甲子園

2014年3月9日(日)・・・ひまわりバスツアー

◇場所

福島市・ポリテクセンター福島

※詳細が決まり次第、随時お知らせいたします。

フランスのジャーナリストが大越町の種まきイベントに参加



楽しいひと時を過ごした様子を漫画にしてくれました。海外の人が見た福島の異文化体験の様子です。



私たちのプロジェクトが新聞で紹介されました

全国各地の新聞に、プロジェクトの活動を取り上げていただきました。いくつかを抜粋してご紹介します。

→朝日新聞 2013年5月15日
プロジェクトの内容と、絵本制作の様子が大きな記事で紹介されました。たびくまとひまわりの絵が記事を彩りました。



花畑の「里親」10万人

【福島県福島市】福島県福島市にある「ひまわり」の花畑。毎年5月下旬から6月上旬にかけて、約10万本のひまわりが咲き誇る。この花畑は、福島県内の被災地を支援するために、全国各地から多くのボランティアが参加している。この花畑は、被災地の復興を支援するために、全国各地から多くのボランティアが参加している。

復興ヒマワリ 絵本に咲いた

【福島県福島市】復興支援の一環として、福島県福島市にある「ひまわり」の花畑。毎年5月下旬から6月上旬にかけて、約10万本のひまわりが咲き誇る。この花畑は、被災地の復興を支援するために、全国各地から多くのボランティアが参加している。この花畑は、被災地の復興を支援するために、全国各地から多くのボランティアが参加している。

名古屋の作家 NPO に協力



▲福島民友新聞 2013年3月12日掲載
プランターへの種まきとフラダンスの高校生が紹介されています。



▲福島民報新聞 2013年3月11日掲載
復興列車と甲子園の様子を伝える記事。見上げる人の表情がいいですね！

たびくまくんに種を送ろう！

子どもたちの力を借りて作成

絵本を描いたのは、愛知県
の里親で、「なかがわ創作え
ほん教室」の卒業生である
絵本作家はらきょうこさん。
同教室の、中川たかこ先生と
協力して制作しました。

途中段階で三歳〜十二歳
までの子どもたちに読んで
もらい、感想を聞きながら修

正していく、小さな子ども
も「きずな」が伝わる絵本が
完成しました。



今年絵本を通じたプロジェクトが始動！

ひまわり絵本には、種が付
いており、絵本を購入した人

は二〇二三年度のプロジェクトに参加出来ます。さらに、そのひまわりから採れた種を、物語の主人公たびくまくんに送ることもできるオリジナルの封筒も付けています。この封筒は、福島県にある「たびくまくんポスト」に届けられ、二〇一四年に福島県内のひまわり団体に届けられます。



中川たかこ先生からのメッセージを紹介します

こんにちは、わたしは愛知県名古屋市覚王山にてえほん教室をしている中川たかこといいます。

福島ひまわり里親プロジェクトにてひまわり絵本の制作に関わらせていただきました。

絵を描いている はらきょうこ は、教室の受講生です。

この絵本の制作のお話をいただいたとき、まずはじめに「ドキュメンタリー震災絵本」にはしない、というつよい決心をしました。

ひまわりプロジェクトの役割、そして未来を考えたとき、描くべきは起きた事実ではなくこの先の希望だと思ったからです。

この絵本の中で、子どもたちはたびくまくんになったり、動物になったり、さまざまな角度からひまわりの成長を体感することでしょう。



もしかしたら、この絵本の続きを、彼らは想像しているかもしれません。まさに、福島ひまわり里親プロジェクトそのものの体感絵本です。

この絵本をくり返し読むことで、きっとわたしたちと同じことができるのだと思いますし、そうあってほしいと願います。これこそが絵本のもつ力、絵本の意味だと思います。この先、何十年も語り継がれる物語になったととても嬉しく思っています。



なかがわ創作えほん教室
中川たかこ



おかんライブでひまわり絵本販売



ロックバンドおかん大阪城ホールライブにて、ひまわり絵本の限定セットが販売されました。おかんオリジナルのひまわりの缶バッジと絵本のセットで、絵本作家のはらきょうこさん、中川たかこ先生も応援に駆けつけ、PRしました。



中川さんから説明を受ける英国の出版社担当者

ひまわり絵本イギリスへ！

四月十五日から十七日に、イギリス・ロンドンで開催された第四十二回ロンドン国際ブックフェアに、このひまわり絵本が出版されました。

ロンドンの出版社のブースで絵本について英語で紹介。世界中の子どもたちに福島からの「きずな」が伝わる絵本だということを説明しました。その結果、英訳を修正し、英語版が六月に完成しました。全国の里親さんと福島の物語が世界へと飛ばされます。